



《 「〇〇」の秋、といえば？ 》

ようやく過ごしやすい季節になったかと思えば、朝晩は冷え込む日が増えてきました。先日行われたクラスマッチをもって、3年生にとって大きな学校行事は卒業式を残すのみとなりましたね。秋は運動のみならず、学習にも最適の季節です。早朝や放課後など、自分にとって学習しやすい時間をみつけて充実した秋にしましょう！

大学・専門学校ともに多くの人が受験する学校推薦型選抜の入試は、今月がピークとなります。また、3年生100名が受験する「大学入学共通テスト」まで約2ヶ月です。3年生は受験期の本番に向け全力で受験に立ち向かってください。1・2年生の皆さんは来年、再来年の今の時期に自分が受験生になることを理解して、逆算して行動していきましょう。

《 進路決定に向けた活動の目安 》

◎1年生

いよいよ文理選択の時期が迫ってきました。この選択が、今後の高校生活だけでなく、進路決定やその先の人生にも大きな影響を持つことを理解して、集会での説明をよく聴き、保護者の方とも十分に相談したうえで最終的に決めてください。12月の保護者面談を終えると、希望を変更することはできません。進路希望が詳しく決まっていない場合は、可能性のある進路に対応できるような選択をしましょう。

◎2年生

改めてコース選択や選択授業の希望調査がありますね。進路希望が具体的にになってきた人も多いはず。自分の進路希望に合わせてしっかりと考えて、前向きな選択をしましょう。2年生の秋までに志望校が決定している人ほど、難関といわれる学校に合格する可能性が高いというデータがあります。その目標に向かって具体的な努力をする時間が長くなるからです。まだ志望校が明確でない人は、資料請求やHPを見るなどして情報を集め、自分の模試の結果と照らし合わせて考えていきましょう。秋季や年末にオープンキャンパスを開催している学校もあるのでぜひ参加しましょう。

◎3年生

大学進学希望者は「大学入学共通テスト」の受験に向け計画的に学習を進め、得点を伸ばせるよう受験まで努力を続けましょう。学校推薦型選抜を受験する人は、今まさに小論文対策や面接練習を頑張っていると思います。これからの数ヶ月の過ごし方次第で皆さんの進路が決定します。積極的に指導を受け、全力で頑張ってください。

学校推薦型や総合型で合格が決まっても、入学後は一般入試の合格者と一緒に学びます。周囲との学力差が大きく開いていると、授業についていくのが難しくなって、留年や退学につながってしまいます。高校在学中に学習を継続して実力をつけることが、進学後の自分のために非常に重要です。

《 11月の進路関係行事 》

- 1日(土) ベネ駿台共テ模試(3年)
- 15日(土) 全統プレ共テ模試(3年)
- 21日(金) 進路学習調査、公務員講座⑦
- 25日(火) マネー講座(2年)
- 26日(水) 文理選択に関する進路ガイダンス(1年)

《 12月の進路関係行事 》

- 2日(火)～5日(金) 定期考査4
- 9日(火) 看護医療対策コース(2年)
- 12日(金) 公務員講座⑧
- 10日(水)～16日(火) 生徒面談週間 ※45分授業
- 17日(水)～22日(月) 保護者面談 ※特編3時間
- 24日(水)～26日(金) 冬季課外



《 学校推薦型選抜について 》

今回は「学校推薦型選抜」について特集します。

◎学校推薦型選抜の概要

一般選抜との大きな違いは「出身高校長の推薦を受けないと出願できない」という点です。出願にあたっては欠席日数や評定平均、検定・資格等といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般選抜とは違い多くの学校では「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」との条件がついています。学校推薦型選抜を考える場合は、出願上の条件をしっかりと確認しておきましょう。

出願条件では、高校1年から高校3年までの評定平均が指定されることが多いです。例えば、「全体の評定平均3.5以上」といったように全体の評定平均のみを指定する学部・学科もあれば、「全体の評定平均が4.0以上で、英語は4.3以上」など、全体に加えて特定教科の評定平均を指定する学部・学科もあります。実用英語技能検定(英検)に加え、TOEIC(R) LISTENING AND READING TEST、TOEFL iBT(R)テスト、GTEC、IELTS (アイエルツ) などの外部の語学検定のスコアを出願条件としている大学もあります。英検は高校2年の終わりまでに2級を取得できると安心です。CBT(オンライン試験)で受験できる検定は結果が出るのが早く、個別に申し込みば受験回数が増やせます。さらに、大学や学部によっては、例えば、「化学Ⅰ・Ⅱを履修していること」など、指定された科目を履修していることが求められるケースもあります。文理選択の際にはよく調べてください。

入学試験は総合型選抜と同様、出願書類と面接、小論文、プレゼンテーション、学力試験等により総合的に評価されます。国公立大学の中には公募推薦の選考に「大学入学共通テスト」を課すところもあります。

学校推薦型選抜の入試時期は11月1日以降に出願し、12月中に合格発表となる場合が多いです。ただし、「大学入学共通テスト」の受験が必要な場合は1月以降に合格発表になります。

◎学校推薦型に向いている人

ほとんどの場合、評定平均が出願条件になっていることが多いため、3年間こつこつと努力を重ねてきた人に向いています。また、総合型選抜と同様、進学先で学びたいことがはっきりしている人や、高校在学中に探究やボランティア、部活動などの課外活動に熱心に取り組み、自分の考え方やスキルを磨いてきた人は、面接等で自分をアピールしやすくなります。

◎指定校推薦と公募推薦の違い

最後に、学校推薦型入試の種類を紹介します。大きく2つ（指定校推薦・公募推薦）に分かれています。

学校推薦型選抜	指定校制		出願先の学校が特定の高校を指定し、出願基準や人数が設定されて実施する入試方式。「合格率が高い」という特徴がある。(近年、 <u>準備不足のため不合格となる例が出ている</u>) 勉強や部活動の成績などを評価する。選考は書類審査と小論文、面接のみの場合が多い。 * 主に私立大で行われ、自分の在籍する高校が指定校になっていなければ受験できない。 在籍高校の先輩方の進学後の成績などにより、出願人数枠が増減することがある。
	公募制	一般	出願先ごとの出願資格を満たしており、出身高等学校の校長から推薦された生徒が受験可能。評定平均に基準があることが多い。選別方法は書類審査の他に面接や学科(能力)試験、面接、小論文などが必要となることが多い。 * 在籍高校の推薦基準と出願先の出願条件をともに満たしていれば応募できる。国公立大学を含め多くの学校で行われている。
		特別	スポーツや文化活動における活動・実績などが評価される。評定平均値に基準があることは少ない。